

図画工作科 分科会

4年「みんなにやさしい町づくり」 荻窪リニューアルプロジェクト



成果 と 課題

<成果>

●総合的な学習の時間で学習した「福祉」の観点を、グループで共有しながら、いろいろな立場の人の視点に立って町づくりの考えを広げていくことをねらいとした。

・町を「立体」で作ることで、児童の意識や意欲が高まった。また、図工の専門性も生かされた。

・立体でつくられた町を「駒(人形)」を使って動かすことで、よりいろいろな立場の人の視点に立つことができた。言葉や文字、図形等とは違う思考ツールとして有効であった。

・総合的な学習の時間のねらい、図画工作科のねらい(作品を見直す・鑑賞等)を考えることで、教師側の教科理解がより深まった。合科的な授業はポイントを絞り、厳選していくことで学習効果が高まることが分かった。「学び」は教科だけでなく、横断的、複合的に課題に向かう学習になっていくと考えられる。

<本時の様子>

町の様々な立場の人になって、作品を見直し、さらにより良い町づくりができるように、活動の見直しをもつことができる。

このベンチ。疲れた時に休めるからお年寄りにいいね。



お店に行く時にすごく遠まわりしないといけないうね。途中に入れるように道をつくらう。

みんなにわかりやすいように、大きい案内板をつくったよ。どうかな？



<課題>

●教科のねらいに合わせて各授業時間の目標設定をしていくこと。

・今回は担任の授業と図画工作科の専科教員との連携授業であった。年間指導計画の設定や目標の設定、時数の確保といった、前もってする教師側の準備が多く必要になった。

・立体の町にしたことで学習効果は高まったが、続けて学習するために作品の保管場所が取れないなどの課題があった。

・教科横断的な授業を円滑に行うためには、ねらいに合わせてポイントを絞り、年間計画とのすり合わせをあらかじめしておく必要がある。